

# しめのひとこと

志免町のいろんなひと、いろんなことをお伝えします！

28

手話は「言語」  
共生社会とは  
相手を思う心を伝える

## 志免町手話の会

すぎしま きよはら  
杉島さん・清原さん

2022年に創立40周年を迎えました。

きこえない・きこえにくい方々と一緒に手話を学んで、交流を行っています。手話で自由にコミュニケーションが取れる社会になることを願い、手話への理解を深め、これからも共に生きる社会を目指します。



### 志免町の手話の会は 多くの町民が参加して発足

志免町手話の会(以下「手話の会」)は、昭和56年の国際障害者年に志免町で開催された手話講習会の卒業生が中心となり、昭和57年に設立されました。講習会開催のきっかけは、当時の志免町職員が県主催の手話研修会に参加したことでした。県では、市町村の窓口で手話通訳ができる人を育てることと啓発を目的として講習会を実施したようです。

研修を受ける過程で、きこえない・きこえにくい方々や、各地の手話の会の方々とお会いし、手話通訳の大切さを痛感しもっと広めたいという強い思いを感じました。

研修会終了後に「志免町でも手話を広めたい」という使命感から、手話講習会を企画しました。手話の講習会開催にあたっては、福岡県聴覚障害者協会や福岡県手話の会連合会の方々の協力を頂きました。志免町初の手話講習会は、100名を超える受講生が集い、週2回、半年間実施することができました。

閉会后に「手話の会を作ります」と呼びかけ、賛同いただいた方々と会を発足し、41年目になります。

### 手話の啓発・普及 手話通訳者の育成を目指して

手話の会は設立当初から、手話の啓発・普及と手話通訳を活動目標としていました。手話通訳者としてまだまだ未熟でしたが、当時は手話通訳の制度も未整備で、学習と通訳を同時進行でこなしている時期でもありました。手話の会では一人でも多くの方に手話を理解していただけるように、毎年手話講習会を開催してきました。また、町の文化祭での手話劇や、手話の歌を披露することにより手話の啓発・普及に努めました。

### 筆談では解決しません ろう者の言語である手話の保証を

県主催の手話研修会の講師が話された「ろう者は、耳がきこえないというだけで、いつも誰かに“お願い”をする人生を送らなければならない。ただ耳がきこえないという障がいの為に」という言葉が心に残っています。手話に出会う前は、ろう者の方には、文章を書いて渡せば全て伝わると思っていました。手話に出会って、きこえない・きこえにくい方々の、音から言葉を獲得することの難しさを知り

おはよう      こんにちは     こんばんは



ありがとう

よろしくおねがいします



#### ▲簡単な手話のあいさつ（手話の会より提供）

ました。例えば、志免は「しめ」と読むことを、音で聞こえたら理解できますが、そのままだと「しめん」と読みますね。地名や人物名など自然に耳から情報が入るから聞こえる人はわかるのです。言葉の理解が難しいのは、情報の少なさが原因だと初めて気づきました。“お願い”の人生を送らないようにするには、やはりきこえない・きこえにくい方々とのコミュニケーションの助けとなる「言語」としての手話の獲得や、多くの人に手話を広め、手話を使う人を増やし共生の社会を築くことの必要性を強く感じます。



### 法改正により手話は言語へ 志免町でも手話言語の条例化を

手話とは、手指の動きや表情などを使って概念や意思を視覚的に表現する視覚言語であり、ろう者の母語です。ろう者とは、耳がきこえない人のうち、手話という母語を持ち手話でコミュニケーションをとって日常生活を送る人々のことです。聞こえる人が第一言語として日本語を話すように、ろう者も第一言語として母語の手話を使っています。

ろう学校では、一時期手話を禁止し、口の形から言葉を読み取り口の形をまねることで話をする口話教育が行われてきました。ろう者が耳の聞こえる人たちの社会の中で暮らすことを考え、口話法の習得を勧めていたからです。しかし、きこえなくて言葉の獲得が難しい人に、話す口の形をみて話を理解することはとても難しいことでした。その後教育現

場での手話の禁止について議論が巻き起こり、平成23年8月に障害者基本法が改正され、意思疎通(コミュニケーション)手段選択の機会確保として言語に手話が含まれると明記されました。

目指すは志免町の手話言語条例の制定です。手話言語条例とは、ろう者が日常生活や職場などで自由に手話を使ったコミュニケーションがとれること、ろう教育に手話を導入しろう児や保護者が手話に関する正しい情報を得ることなどが保証され、社会的に自由に生きられることを目指すものです。福岡県では令和5年4月に手話言語条例が施行されました。全国で36番目です。志免町では同年11月18日に、志免町手話の会主催で町民を対象とした「手話言語条例を学ぼう！」という学習会を開催しました。志免町には手話言語条例がまだありません。これからです。



### 生活の様々な場面で 心からのコミュニケーションを！

コロナ禍のマスク着用により、顔を見て話すことが難しい、口の動きが見えず話しかけられてもわからないことで困りました。手話は顔の表情も含め、特有の文法を使って話す言語です。表情が見えないために、相手の「きもち」がわからない経験をたくさんしました。行政の窓口やお店や病院など、日常生活の様々な場面できこえない、きこえにくい人がいるかもと考えてみてください。指差しや簡単な手話などのコミュニケーションを介し、伝えようという気持ちが見えると安心します。ろう者への理解を深め、手話を知る人がもっと増えることを望みます。



### 取材を終えて

制度や仕組みが整うまでには課題があり、ボランティアの力はまだまだ必要です。まずは相手の言葉＝手話でコミュニケーションをはじめませんか。  
※お問い合わせは、志免町社会福祉協議会まで

